

令和3年度 学校目標評価最終報告

領域	対象	具体的な目標	目標達成のための行動計画・方策など	評価	意見・評価の理由
教育活動	全般	生徒の自主性を育てる	生徒自らの手で主体的・自主的な学校生活を送るための支援。「自治の校風」の理想の具現化に向けた活動の保障と指導助言。	4.2	<p>【自治活動支援】 生徒会活動においては、常に感染対策を考慮しつつ、可能な道を探る、という形となった。状況が刻々と変化する中では、複数の案を同時に検討するということが、より重要である。</p> <p>【自治活動成果】 制限のかかる中で、各種の生徒会行事の可能性を追求し、実施することができた。</p> <p>【学年の実践】 ・文化祭において、多くの3年生が係の責任者となり、運営に携わった。 ・生徒自らが創意工夫して可能性を模索しながら実践した。 ・幹事会を随時行い、高校生活を自ら創る意識の定着に努めた。主体的な活動は広島の高中生との交流実践にも色濃く見られた。</p>
	学習指導	広い分野で確かな学力を養う	基礎学力の育成。自学自習ができる向上心・探究心の涵養。探究的な学びの推進。	4.0	<p>【係の実践】 ・土曜日活用の研究。 信大連携ゼミの実施 深志教養ゼミの実施 ・大学、研究機関、企業が募集する様々な企画を紹介し、生徒が自主的、積極的に参加できるよう支援した。</p> <p>【学年の実践】 ・3年前期特編は、実際の共通テストの時間で実施し、問題の時間配分感覚を養った。 ・家庭学習の呼びかけを行ったり、学習強化月間を設けるなどした。 【教科等の実践】 ・特に3年次の授業は選択制であり、主体的な活動を中心にグループで考え、実践した。 ・論述添削などをGoogle Classroomを使って、自宅学習中もスムーズに行うことができた。</p> <p>【教科等の実践】 ・各学年で工夫して補習や小テスト等を行った。 ・小テストなどで語彙などの基礎力増強に努めた。また、グループワーク、ペアワークを取り入れ協働的な学びを促した。 ・小テスト(単語)を行い、基礎力の定着を図った。(英語) ・ICTを活用した。</p>
	進路指導	進路希望の実現を図る	新教育課程の研究。生徒の資質・能力を高める指導方法の研究。	3.9	<p>【教育課程の研究】 ・今年度の2年次から人文科学、自然科学、自然科学特別探究コースを設置した。 ・共通テストの新科目に対応した教育課程の修正を行った。 ・共通テストの新科目の調査を開始した。</p> <p>【探究活動】 ・外部講師による進路講演や総合的な探究の時間を活用し、自分の進路について考えさせ、目標設定を促した。 ・夏休み以降、生徒に進路について調べさせ、3年次の選択科目を考えさせた。 ・思考力を問う問題に対応出来るような問題にも取り組んだ。</p> <p>【教科等の実践】 ・新学習指導要領の新たな科目についての教科内の研修を行った。 ・3年生の希望者に対する放課後補習(問題演習)を行った。 ・パフォーマンステストを取り入れ、自己表現力を高める工夫をした。(英語) ・3観点の学力をバランスよく伸長するため、工夫して可能な限り実験を行った。(理科)</p>
	進路指導	計画的なキャリア教育を行う	外部講師による進路講演会、大学説明会、卒業生との懇談、進路通信、学年集会、個別面談、適性検査等を通じた進路意識の啓発。企業や大学と連携したキャリア教育の充実。教員を対象とした進路指導研修会の実施。	3.7	<p>【係の実践】 ・様々な制約の中、年度当初予定していた進路行事を実施することができた。医学科関係の企画が同時期に行われたため、参加希望者の減少を招いたと思われる、工夫が必要と感じた。</p> <p>【学年進路】 ・予備校に依頼して模試結果の分析を行い、生徒・教師に対して講演会・懇談会を開き、問題点を意識させた。 ・キャリア研修旅行は実施できなかったが、平素より継続的な指導を心掛けた。</p> <p>【探究活動・キャリア教育】 ・企業や大学と連携したキャリア研修。 ・深志教養ゼミで県のスーパーバイザー、社会人(OBを含む)活用。 ・卒業30周年、50周年記念事業としての、卒業生による特別講義の実施。 ・京都大学学びのコーディネータ事業の活用。</p>
	生徒の自治	自治活動を保障し、自治的精神を育成する	学級活動・部活動・生徒会活動における生徒の自主性や、リーダー育成のための機会の保障と指導助言。文化祭・講演会など生徒会行事に対する支援と指導助言。	4.4	<p>【自治活動の涵養】 ・文化祭の実施に当たっては、ガイドライン作りから、事前あるいは当日の感染対策まで、さまざまな取り組みについて、生徒の主体的な取り組みの支援ができた。</p> <p>【生徒会】 出来ることに限度がある中でアドバイスをし、生徒もより望ましい達成に向けて、工夫を凝らし、応えてくれた。</p> <p>【HRの実践・幹事会】 ・コロナ下における文化祭のやり方を考えさせ、適切な助言やオンライン技術の解説を行った。 ・幹事会を中心に、学年クラスマッチや研修旅行の見学先の選定など生徒主体に計画を立て実施できた。</p>
生活指導	規律ある生活のリズムをつくる	学習を中心とした生活リズムの確立(部活動・生徒会活動の時間の適正化)。清掃・保健・交通安全指導。	3.8	<p>【生活リズムの管理】 ・様々な連絡などが、オンラインで行われるようになり、時間と場所を拘束されることは以前より少なくなった。しかし、オンラインでの様々な活動のあり方にも配慮してゆく必要があると思われる。 ・生活実態調査による生活リズムの確立のための有効な支援ができなかった。</p> <p>【交通安全】 ・自転車事故防止と交通マナー向上のため、HRでの注意喚起・掲示や、全職員による街頭指導(10月～11月)を実施した。事故が起きた場合には、各学年で注意喚起を迅速に行った。 【学年の実践】 ・文化祭終了後、間を置かず校外模試・夏休み特編を行うことにより、緩んだ気持ちや生活を受験に向けて切り替えた。(3学年)</p> <p>【学年の実践】 ・学習指導と合わせて生活リズムを声かけた。生徒もコロナ感染予防に努め、全体的に緊張感を持って生活していた。 ・4月の段階で、SNS講話をすることにより、性被害の防止、SNSが起因するいじめやトラブルを防ぐことができた。また、交通安全講話、市役所交通安全課との通学路立ち番を実施し交通安全指導を行うことで、交通事故を未然に防ぐことができた。(1学年)</p>	
	適切な個人指導及びカウンセリング体制を充実させる	教科担任・HR担任・クラブ顧問の連携。スクールカウンセラーとの連携。きめ細やかな生徒相談の実施。保護者との懇談の実施。	3.9	<p>【カウンセリング】 ・生徒・保護者が必要なタイミングでカウンセリングを受けられるよう調整に努めた。 ・カウンセリング後は担任がSCと話す時間を必ず確保し、カウンセリング後も支援・見守りを継続することができた。 ・2年に進級し、不登校気味の生徒が多くなったが、カウンセラーと連携して対応した。</p> <p>【サポート体制】 ・長期入院生徒の学習支援、特別支援に係る教育相談専任の活用・連携など、適切な個人指導及び生徒に寄り添う体制を整えられるよう努めた。</p> <p>【学習の悩み】 ・積極的に制度を利用することにより、多くの生徒・保護者がカウンセリングを利用することができた。 ・面談週間を中心に生徒・保護者との懇談を随時行った。 ・成績不振者への個別相談を実施した。</p>	
	安心安全な学校環境の整備を図る	危機管理体制の整備。いじめ・体罰のない学校環境の確保。健全な職場づくりの推進。環境対策(ゴミの削減、電気・水道使用量の削減)。	3.8	<p>【いじめ・体罰への対応】 ・学校生活アンケートの結果を踏まえて対応している。 【職場環境】 ・学校安全衛生委員会を通じて、年休、振休取得、時差出勤の実施等を行っている。</p> <p>【環境対策・危機管理】 ・コロナ感染症対策については、県等からの通知を受けて必要な対策をとるとともに、生徒・保護者に対する注意喚起を行っている。</p> <p>【清掃】 ・職員及び生徒の協力のもと、コロナ禍でもしっかりと取り組むことができた。 【環境対策】 ・ゴミの削減、電気・水道いづれも対前年で使用量を削減できた。</p>	
学校運営	開かれた学校	保護者との連携を図る	PTA総会の開催、学年・学級PTAの開催。地区PTAの開催。保護者面談の実施、適切な家庭訪問の実施。緊急時一斉メール配信システムの活用。	3.6	<p>【緊急時メーリングシステム】 ・新型コロナウイルス感染症への対応や、日課・行事予定等の変更などを、一斉配信メールシステムを活用して、生徒・保護者に連絡した。 ・各学年では、必要な情報が確実に届くよう、教育クラウドサービスを活用した情報発信に努めている。</p> <p>【PTA活動・他校との交流】 ・本年度コロナ禍のため、予定した活動は感染症対策でできなかった。 ・一部をオンラインに切り替えて実施した。</p> <p>【学年等の実践】 ・進路決定時に3者面談を実施し、本人・保護者の意向を確認しながら進路指導を行った。 ・学年PTAは実施できなかったが、一斉メール配信などで情報の共有はできた。また、保護者の希望や生徒の様子を見て適宜対応に努めた。</p>
	開かれた学校	開かれた学校をめざす	「評価および公開方法」の改善と充実。保護者・地域・中学校への情報発信。公開授業・中学生体験入学等の実施。学校評議員会の開催、ホームページの充実。	3.9	<p>【授業公開・体験入学】 ・体験入学は、動画配信に切り替えて実施した。 ・授業公開は、中学3年生と本校保護者向けに日程を分けて実施した。</p> <p>【中学校・地域への発信】 ・中学生に対しては、文化祭・体験入学で、来校機会を作ることができなかったため、本校の雰囲気やクラブなどの生徒の様子を伝えられていない面がある。 ・文化祭では、地域の方も招いて一般公開を実施した。</p> <p>【学校評価・HP】 ・学校ホームページでは、生徒会生徒が企画して、中学生を対象とした情報発信に努めている。 ・校長通信では、授業や生徒の活動を画像・動画等を交えて掲載している。 ・学校ホームページ等による情報発信を充実させ、保護者・地域・中学校に対して学校の様子を伝えていく必要がある。</p>
	学校の情報化	ICTを活用した学校環境の整備を図る	ICT(情報通信技術)を活用した学習の研究、充実。一人一台端末を活用した学習活動の研究・推進。	4.3	<p>【授業への活用実践】 ・Wi-Fi環境が整備されたことによって、オンライン英会話などの動画・音声教材の活用が進んでいる。 ・1・2年生に対して、一人一台端末環境を整えたことにより、コロナ感染症対策によるオンライン授業へも比較的スムーズに移行することができた。</p> <p>【授業への活用研究】 ・電子黒板とオンライン授業の効果的な併用や、Google Classroomの活用など、学習指導への活用を進めるための研修を行った。 ・一人一台端末を活用した効果的な授業展開等について、さらに研究を進める必要がある。</p> <p>【学校運営への活用】 ・無線アクセスポイントの増設や外部接続回線の増強など、ネットワーク利用環境の整備に努めた。 ・12月より、1・2年生が1人1台端末による学習環境を整えることができた。授業以外にも、生徒会活動などで、オンライン配信やGoogle Classroomの活用などが進んでいる。</p>